会館に太陽光発電

赤字運営 解消めざす

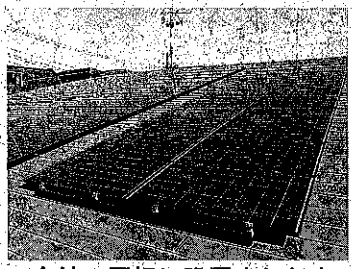
宝塚・高松町自治会 パネル設置

自治会が運営している高松会館
＝宝塚市高松町、自治会提供

電気料金の再値上げが検討される中、宝塚市の高松町自治会が、市のコミュニティー施設「高松会館」の屋根を利用し、太陽光発電に取り組んでいる。指定管理者として会館を運営してきたが、光熱費がかさみ、自治会費で穴埋めしてきた。環境に優しい再生可能エネルギーで赤字解消をめざす。

2階建ての会館の屋根に48枚のパネルが光る。約70平方㍍あり、出力10・32キロワット。2月16日から発電を始め、会館の年間電気代（30万～40万円）を20万円程度減らす、と期待されている。

設置費約580万円のほぼ半額を国の補助金で賄う。残りは自治会の負担だが、順調に発電してくれれば、15年ほどで元が取れる計算だという。



会館の屋根に設置された太陽光パネル＝宝塚市提供

会館は2008年にオープンし、高松町自治会は当初から指定管理者として運営業務を請け負ってきた。住民の会合や葬儀などに、ホールや会議室を有料で貸し出すのが収入源だ。

ただ、光熱費の負担が重く、約20万円の赤字が出た年もあった。関西電力が電気料金を値上げした一昨年5月以降、負担は一層重くなった。

自治会は市に相談し、太陽光パネルの設置を検討。昨年11月、市と共同で国に補助金を申請したところ、認められた。

自治会長の新里吉光さん(72)は「太陽光発電で赤字のない安定した会館運営ができる。災害時の非常用電源としても活用したい」と話している。（鈴木裕）